

第7. ゾーン別評価

ゾーン別（生活創造圏別）ごとに沿岸域の状況（安全、環境、資源、利用）、パブリックアクセスに関する特徴と課題を整理すると、次のとおりである。

1. 桑名ゾーン（木曾岬町～桑名市）

木曾岬干拓地や長島スパーランド等、大ロットな資源が特徴であり、海辺利用のポテンシャルは大きい。現時点では活用しきれていない。また、大河川の河口部に位置しており、輪中に代表される特徴のある地形を有すとともに、治水の関係から海辺利用には一定の制約を受けている。しかしながら、湾奥部の大都市近郊における貴重な海辺空間であり、他の海辺に比べると、都市的な利用ニーズは高い。

パブリックアクセスに関する特徴は、歴史的資源に恵まれているものの、現状では、揖斐川河畔や海浜でのレクリエーション利用が主である。また、前面海域が養殖や魚場として利用されており、今後増加が予想されるマリンスポーツ等との競合が懸念される。海辺へのアクセスは、空間的障害は少ないが、海辺に近づける公共交通機関は限られている。

パブリックアクセスに関する課題としては、海辺の魅力に活用できる資源として、木曾岬干拓地、ナガシマスパーランド等があり、利用計画の策定や海辺との連携等が必要である。一方、東海道における唯一の海上路であった七里の渡し跡や、木曾三川の治水の歴史を残すものなど、歴史的な資源が多く残されており、これらの活用を図っていくことも必要である。また、木曾岬干拓地の活用方向や、漁業とレクリエーションとの共生など、沿岸域の利用と保全の方針の確立が具体的に求められている。

さらに、この沿岸には、第二名神高速道路が通過しており、さらなる集客が見込まれる地域でもある。

表 2 - 4 桑名ゾーンにおける沿岸域の現状

安全	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防背後には海拔 0m 地帯が広がる。 ・地盤沈下や堤防の沈下・老朽化が見られ、液状化の危険もある。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・水郷県立自然公園に指定。 ・埋立や干拓により全海岸が人工海岸化。砂浜は長島の一部のみ。 ・木曾三川河口域や前面海域に干潟が分布する。 ・木曾岬干拓地が野鳥の貴重な生息地となっている。
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション(海岸系)： 揖斐川河畔(桑名市)。 ・レクリエーション(施設系)： 木曾川マリーナ(木曾岬町)、ナガシマスパーランド(長島町)。 ・親水型交流(歴史・観光系)： 木曾岬神社(木曾岬町)、木曾岬町立文化資料館(木曾岬町)、長島温泉(長島町)、船着明神(桑名市)、七里の渡し跡(桑名市)、住吉神社(桑名市)、桑名城跡(桑名市)、蛤墳(桑名市)、赤須賀神明社(桑名市)、白魚の句碑(桑名市)、開拓史の碑(桑名市)。 ・親水型交流(産業系)： 伊曾島漁港(長島町)、桑名港(桑名市)。 ・環境学習・海岸保全活動： 揖斐川右岸(桑名市)、城南海岸(桑名市)。 ・眺望： ナガシマスパーランド(長島町)、城南海岸(第二名神高速道路)(桑名市)。 ・その他： 木曾岬干拓地(木曾岬町、長島町)。
利用	<ul style="list-style-type: none"> ・埋立、干拓が古くより盛ん。大規模な木曾岬干拓地があるが利用されていない。 ・前面海域全体に海苔養殖場や魚場。河口では採貝。 ・木曾岬町・長島町で海釣りが盛んである。 ・沿岸を第二名神高速道路が通過。

2. 四日市ゾーン（川越町～楠町）

県下第一の産業集積地であると同時に、四日市港を有すことから、海辺には、物流施設や生産施設等が多いが、潮干狩りや環境保全活動が行われている海岸も多い。また、マリーナ、遊覧船基地、散策空間、眺望点など、多様な利用資源が分布している。

パブリックアクセスに関する特徴としては、四日市港ポートビル、潮吹き堤防、千歳地区（遊覧船基地）など港湾を活かした魅力拠点が幾つかあるが、一部の施設は十分利用されているとは言い難い。また、臨海部の埋め立て地では、多くの企業が立地しており、海辺への接近は困難な状態にある。一方、住民の環境への関心は高く、高松海岸（川越町）では沿岸利用に関して住民意識の高まりが生じ、吉崎海岸（楠町）などでは観察教室等が取り組まれている。海辺へのアクセスは不十分ではあるが他地域より公共交通機関（バス停等）は整備されている。

パブリックアクセスに関する課題としては、隣接して広がる市街地からの都市的需要が多いことを活かして、都市的な魅力空間を創造していくため、歴史的資源など幾つかある海に関する資源の魅力や情報発信力を向上させ、ネットワークを形成することが望まれる。また、多くの利用者を集める川越電力館は、海辺と連携させることで、さらに伊勢湾を知る魅力拠点としてのポテンシャルを高めることが可能である。また、高松海岸における利用と保全のあり方、吉崎海岸における環境学習等の取組など、沿岸域の利用と保全の方針の確立が具体的に求められている。

表2 - 5 四日市ゾーンにおける沿岸域の現状

安全	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防背後には海拔 0m地帯が広がる。 ・地盤沈下や堤防の沈下・老朽化が見られ、液状化の危険もある。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・埋立や干拓で全海岸が人工海岸化。砂浜は川越・楠の一部のみ。 ・朝明川河口域に干潟が存在するほか、鈴鹿川河口域、吉崎海岸には希少生物種が生息。
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション(海岸系) : 川越北地先(川越町)、朝明川左岸(川越町)、高松海岸(川越町)、吉崎海岸(楠町)。 ・レクリエーション(施設系) : 四日市港ポートビル(四日市市)、伊勢湾マリーナ(四日市市)。 ・親水型交流(歴史・観光系) : 富田のドンド(四日市市)、くじら船神事(四日市市)、四日市まつり(四日市市)、四日市港(千歳地区)(四日市市)、未広橋梁(四日市市)、四日市市立博物館(四日市市)、鯨船祭り(楠町)。 ・親水型交流(産業系) : 川越漁港(川越町)、磯津漁港(楠町)、楠漁港(楠町)。 ・環境学習・海岸保全活動 : 朝明川左岸(川越町)、川越町全域(川越町)、浜園地区(四日市市)、霞地区(四日市市)、四日市地区(四日市市)、磯津地区(四日市市)、磯津漁港海岸(楠町)、吉崎地区(楠町)、楠町全域(楠町)、南五味地区(楠町)。 ・散策 : 川越緑地公園(川越町)、霞ヶ浦緑地公園(四日市市)、潮吹き堤防(四日市市)。 ・眺望 : 川越電力館(川越町)、四日市港ポートビル(四日市市)、楠中央緑地公園(楠町)。
利用	<ul style="list-style-type: none"> ・埋立や干拓による土地利用が古くより盛ん。重要特定港湾四日市港の港湾区域。民有護岸が多く一般人は水際に近づきにくい。 ・物流機能強化に向け、埋立による霞ヶ浦地区北埠頭整備が進捗中。 ・四日市港へのアクセス路(臨港道路)建設計画がある。

3. 鈴鹿ゾーン（鈴鹿市）

海水浴や環境保全活動が行われている海岸と、マリナー、漁港が海辺の主な資源であるが、大黒屋光太夫資料館など歴史のある資源も残されている。全体として、大規模な施設はなく、ヒューマンスケールの利用と保全が共存している。

パブリックアクセスに関する特徴としては、漁港など港湾として利用されている場所を除くと砂浜の残されている海岸が多く、水際へのアクセスは比較的容易である。特に鈴鹿市中部から南部にかけては、千代崎海岸や鼓ヶ浦海岸など多くの海水浴客を集める地域が存在しており、海との関わりは薄くない。また、砂浜に貴重な植物が残されている所もある。住民の環境への関心は高く、環境保全や創造の多様な活動が展開されている。一方漁港が何か所か存在していることから、水産業との関わりも深い。交通アクセスについてみると、北部の海辺は公共交通機関によるアクセスが弱いですが、南部では鉄道によるアクセスも可能である。

パブリックアクセスに関する課題としては、レクリエーション系資源の活用について情報、施設を充実することや、漁港やマリナー等の資源を親水型交流拠点として生かしていくことが望まれる。さらに、漁港、魚市場などを水産業を身近に感じることのできる体験学習等の場として活用することも期待される。また、残されている自然を守りつつ、海岸の利用を促進していくために、環境関連の多様な取組や、海浜の適切な管理など、沿岸域の利用と保全の方針を確立していくことも必要である。

表 2 - 6 鈴鹿ゾーンにおける沿岸域の現状

安全	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防にクラックが認められる場所があり、全域で液状化の危険もある。 ・沿岸域において人口密度が高くなっており、防災施設の重要性が高くなっている。 ・砂浜幅の狭いところがあり、松林が分布せず、自然の消波機能、飛砂、防風機能の劣っているところがある。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢の海県立自然公園に指定。 ・全海岸が砂浜。連続的な箇所や松林も多い良好な海岸景観が形成。 ・貴重な海浜植物群落が形成されているところがある。
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション(海岸系)： 千代崎海岸(鈴鹿市)、鼓ヶ浦海岸(鈴鹿市)。 ・レクリエーション(施設系)： 白子マリーナ(鈴鹿市)、ヤマトマリーナ(鈴鹿市)。 ・親水型交流(歴史・観光系)： 鯨突き(祭り)(鈴鹿市)、江島若宮八幡神社(鈴鹿市)、大黒屋光太夫 供養塔(鈴鹿市)、大黒屋光太夫資料館(鈴鹿市)。 ・親水型交流(産業系)： 鈴鹿漁港(鈴鹿市)、若松漁港(鈴鹿市)、千代崎港(鈴鹿市)、白子港(鈴 鹿市)。 ・環境学習・海岸保全活動： 長太地区海岸(鈴鹿市)、若松地区(鈴鹿市)、千代崎地区(鈴鹿市)、江 島地区(鈴鹿市)、白子地区(鈴鹿市)、鼓が浦地区(鈴鹿市)、磯山地区 (鈴鹿市)。 ・散策： 江島緑地(鈴鹿市)、白子港緑地(鈴鹿市)。 ・眺望： 岸岡山緑地(鈴鹿市)。
利用	<ul style="list-style-type: none"> ・前面海域全体に海苔養殖場。 ・夏の海水浴が盛ん。水上スキー等のレクリエーションも盛んであり住民 や漁業者とのトラブルが発生。 ・背後地に住宅地が多い。

4．津ゾーン（河芸町～香良洲町）

海浜が多いという地形と、市街地や交通幹線が比較的海辺近くで展開している特徴を背景として、海水浴、潮干狩り、体験漁業、環境保全活動が行われている。特に、津の海岸の潮干狩りは、県外にも知られている。また、マリーナ、漁港が多いことが特徴である。

パブリックアクセスに関する特徴としては、砂浜の残る海岸が多く、津市伊倉津地区の工業用地を除いては、水際線へのアクセスは容易である。関西圏からの利用者も多いレクリエーション拠点（海岸系&施設系）が海の魅力の中心であり、津市鷺崎から御殿場にかけての海岸、香良洲海岸では、海水浴、潮干狩りなどレクリエーション拠点（海岸系）、河芸町のマリーナ河芸、津の伊勢湾海洋スポーツセンターなどはレクリエーション拠点（施設系）として活発に利用されている。この地域は漁業も盛んであり、御殿場海岸や香良洲海岸では体験漁業も行われている。住民の環境への関心は高く、白塚海岸や阿漕浦海岸など多くの地域で、環境保全や創造の多様な活動が展開されている。しかしながら、自動車の海浜乗り入れ規制、廃棄物の投棄防止対策、海浜公園の管理等、対応が求められている海浜もある。公共交通機関の利用は比較的容易であり、河芸、白塚、阿漕浦、香良洲等では鉄道やバスによるアクセスが可能であるが、自動車による利用者数に対し沿岸の道路や駐車場の規模が小さいため、交通渋滞や不法駐車などが問題となっている。

パブリックアクセスに関する課題としては、隣接して広がる市街地からの都市的需要が多いことや、漁港やマリーナ等の資源を活かして、親水型交流拠点の形成が望まれる。また、環境関連の多様な取組や、海浜の適切な管理など、沿岸域の利用と保全の方針の確立が具体的に求められている。

表 2 - 7 津ゾーンにおける沿岸域の現状

安全	<ul style="list-style-type: none"> ・津市の一部で堤防沈下が見られ、液状化の危険性もある。 ・港湾、工業地域を除く全域が砂浜海岸となっており、砂浜幅の広いところでは松林が分布し、自然の消波機能、飛砂、防風機能を担っている。 ・沿岸部の人口密度が高く、津松阪港エリアでは背後地資産の重要性が高いことから、防災施設の重要性が高くなっている。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢の海県立自然公園に指定。 ・港湾、工業地域を除く全海岸が砂浜。連続的な箇所や松林も多い良好な海岸景観が形成。 ・田中川河口や雲出川河口に干潟が存在。 ・海浜植物の生育、アカウミガメの産卵など、貴重な生物の生育・生息の場となっている。
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション(海岸系) : <ul style="list-style-type: none"> ・ 贄崎海岸(津市)、阿漕浦海岸(津市)、御殿場海岸(津市)、香良洲海岸(香良洲町)。 ・レクリエーション(施設系) : <ul style="list-style-type: none"> ・ マリーナ河芸(河芸町)、伊勢湾海洋スポーツセンター(津ヨットハーバー/津市)、香良洲公園キャンプ場(香良洲町)。 ・親水型交流(歴史・観光系) : <ul style="list-style-type: none"> ・ ざるやぶり神事(河芸町)、河芸町立図書館資料館(河芸町)、ししこ念仏(津市)、やぶねり(津市)、漁場境界標(津市)、唐人踊り(津市)、津祭り(津市)、観海流発祥地流祖宮先生像(津市)、阿漕塚(津市)、宮踊り(香良洲町)、香良洲公園(香良洲町)。 ・親水型交流(産業系) : <ul style="list-style-type: none"> ・ 河芸漁港(河芸町)、白塚漁港(津市)、津港(津市)、NKK(津市)、香良洲漁港(香良洲町)。 ・環境学習・海岸保全活動 : <ul style="list-style-type: none"> ・ 千里地区(河芸町)、上野地区(河芸町)、白塚地区(津市)、栗真地区(津市)、贄崎地区(津市)、阿漕浦地区(津市)、御殿場地区(津市)、伊倉津地区(津市)、米津地区(津市)、香良洲海岸地区(香良洲町)、香良洲公園付近(香良洲町)。 ・散策 : <ul style="list-style-type: none"> ・ 河芸親水公園(河芸町)、栗真町屋浦海岸(津市)、三重大学東部(津市)、阿漕浦海浜公園(津市)。 ・眺望 : <ul style="list-style-type: none"> ・ 本城山青少年公園(河芸町)。
利用	<ul style="list-style-type: none"> ・津南部の前面海域は津松阪港の港湾区域となっている。 ・前面海域全体に海苔養殖場。採貝も盛ん。 ・春から夏の潮干狩りや海水浴が盛ん。水上スキー等のレクリエーションも盛んであり住民や漁業者との競合が発生。 ・背後地に住宅地が多い。 ・津市贄崎地区及び伊倉津地区で港湾整備が計画されている。

5．松阪ゾーン（三雲町～明和町）

海浜が多いという地形と、市街地が海辺から遠く離れていることを背景として、海水浴、潮干狩り、キャンプ場など、自然を活用した利用が中心である。

パブリックアクセスに関する特徴としては、漁業が盛んであり4つの漁港を有する。レクリエーション拠点（海岸系）はあるものの、利用者が多くなく、親水型交流拠点（観光系、商業系）はない。一方、藻場、干潟などの豊かな自然が残されており、多様な環境関連活動が行われている。また、大部分の海岸では公共交通機関によるアクセスが困難であり、自動車によるアクセスは可能であるが、サイン等の整備が不十分である。

パブリックアクセスに関する課題としては、広域的に利用者を集めうる魅力がなく、当ゾーンの特性を活かした魅力づくりの方向性を明らかにするなど、シンボリックな拠点の形成が望まれる。特に、松阪港や漁港など港湾施設を海に親しむ空間として積極的に活用していくことが期待される。あわせて、漁業や環境関連の多様な取組を支援する方向で、沿岸域の利用と保全の方針を確立することが求められている。また、市街地や交通幹線が海辺から離れているため、海を感じることができるようサイン、眺望等の工夫が重要な課題である。

表 2 - 8 松阪ゾーンにおける沿岸域の現状

安全	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全域で堤防のクラック。松阪市の一部で堤防の空洞化。全域において液状化の危険性あり。運輸省「ふるさと海岸整備モデル事業」による堤防の強化が進捗中。 ・砂浜幅が狭いことから自然の消波機能が劣っている。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全域で干潟・藻場が存在。松名瀬海岸には優良なアマモ場が存在。 ・港湾を除き概ね半自然海岸であり、明和町には松林がある。 ・雲出川から櫛田川河口、大淀など随所に希少生物種が生息。
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション(海岸系)： 五主海岸(三雲町)、櫛田川河口(松阪市)、松名瀬海岸(松阪市)、大淀海岸(明和町)。 ・レクリエーション(施設系)： 松阪マリーナ(松阪市)、大淀海岸キャンプ場(明和町)、大淀西海岸ムーンビーチキャンプ場(明和町)、伊勢シーサイドモビレージ(明和町)。 ・親水型交流(歴史・観光系)： 松浦武四郎生家(三雲町)、松ヶ崎神社(松阪市)、松阪市立歴史民族史料館(松阪市)、大淀祇園祭(明和町)、明和町立歴史民族史料館(明和町)。 ・親水型交流(産業系)： 松ヶ崎漁港(松阪市)、獺師漁港(松阪市)、松阪港(松阪市)、下御糸漁港(明和町)、大淀漁港(明和町)。 ・環境学習・海岸保全活動： 曾原新田(三雲町)、吹井ノ浦地区(松阪市)、松名瀬地区(松阪市)、川尻地区(明和町)、北藤原地区(明和町)、浜田地区(明和町)、大淀海岸地区(明和町)。
利用	<ul style="list-style-type: none"> ・三雲町から松阪市にかけて津松阪港の港湾区域となっている。 ・前面海域全体に海苔養殖場。採貝も盛ん。 ・春から夏の潮干狩りや海水浴が盛ん。 ・吹井ノ浦に沖合への人工島建設による港湾整備の計画がある。

6 . 伊勢ゾーン（伊勢市～二見町）

二見浦など海辺の観光資源に加えて、伊勢神宮など歴史的資源の集積した地域である。漁港は多いが、港湾区域を除いて砂浜の残された海岸が多く、海水浴、潮干狩り、体験漁業などが行われている。環境保全活動も各地で行われており、海辺の利用と保全が共存した地域である。

パブリックアクセスに関する特徴としては、伝統的な観光資源である夫婦岩を中心に、レクリエーション拠点（海岸系）も存在する。自然環境が優れており、歴史文化の資源も多い。交通アクセスについてみると、伊勢市では、鉄道が内陸部を通っているものの、バスによりアクセスが可能である。また、二見浦付近では、鉄道が海岸近くにあり二見駅から海岸にアクセスできるほか、国道42号が海岸近くを通っているため、道路から海を望むことができる。

パブリックアクセスに関する課題としては、漁業や歴史文化の資源を活かした、親水型交流拠点の形成が望まれる。また、優れた自然環境を適切に保全するため、沿岸域の利用と保全の方針の確立が求められている。今後は、親水型交流拠点の新たな形成を支援するため、県民や来訪者に対する情報を充実することも重要な課題である。

表2 - 9 伊勢ゾーンにおける沿岸域の現状

安全	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全域で堤防にクラック。液状化の危険性がある。一部で建設省直轄の堤防改築。 ・背後地に海岸線に沿って松林が広く分布し、自然の飛砂、防風機能を担っている。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢志摩国立公園に指定。 ・ほぼ全域に藻場、東大淀漁港、豊北漁港及び大湊地区周辺に干潟が存在。 ・二見で自然海岸が残るが概ね半自然海岸。ほぼ全域に松林があり、良好な海岸景観を形成。 ・随所に希少生物種が生息。 ・砂浜幅が狭く海岸侵食の顕著な海岸が見られる。
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション(海岸系) : 東大淀海岸(伊勢市)、豊浜海岸(伊勢市)、大湊海岸(伊勢市)、二見浦(二見町)。 ・レクリエーション(施設系) : マリーナ伊勢(伊勢市)、ゴーリキマリンビレッジ(伊勢市)、二見シーパラダイス(二見町)。 ・親水型交流(歴史・観光系) : おかしら神事(伊勢市)、河崎街並(伊勢市)、伊勢神宮(伊勢市)、伊勢市立郷土資料館(伊勢市)、神宮徴古館農業館(伊勢市)、塩御殿・御塩浜(二見町)、海水浴場発祥地の碑(二見町)、二見輿玉神社(二見町)、夫婦岩(二見町)、竜宮社(二見町)、松下社(二見町)。 ・親水型交流(産業系) : 村松漁港(伊勢市)、豊北漁港(伊勢市)、大湊(伊勢市)、宇治山田港(伊勢市)、江漁港(二見町)。 ・環境学習・海岸保全活動 : 東大淀地区(伊勢市)、大湊海岸地区(伊勢市)、村松漁港海岸(伊勢市)、北浜東地区(伊勢市)、豊北漁港海岸(伊勢市)、豊浜海岸地区(伊勢市)、今一式、西、荘地区(二見町)、茶屋地区(二見町)、江地区(二見町)、松下地区(二見町)。 ・眺望 : 伊勢志摩スカイライン(伊勢市)。
利用	<ul style="list-style-type: none"> ・前面海域全体に海苔養殖場や魚場。漁業が主要産業。 ・各地で海水浴や海洋レジャーが盛ん。